

奈良県立五條高等学校 平成30年度 学校運営協議会 全日制部会（第2回）

1 日 時 平成30年10月24日（水）15時20分～16時40分

2 場 所 奈良県立五條高等学校 小会議室

3 参加者 （委員）的場真一、竹花博文、田中義人、飯田明子、下村卓、中井基雄（校長）
（事務局）廣田清雄（教頭）、福井邦裕（教頭）、芝野恵一（事務長）
左川正太郎（教務部長）、谷口達之輔（進路指導部長）、澤一彦（広報企画部長）

4 内 容

(1) あいさつ・日程説明

(2) 本校の進路指導について（谷口進路指導部長）

(3) 協議

・（質問）

4年生大学進学者の割合は変化しているか。

・（回答）

4年生大学が少し減り、専門学校への進学者が増えている。即戦力を求める企業のニーズと実学が就職に有利という認識が生徒たちに強まっていることが一因。専門学校も学生集めのため、あらゆる手を使って宣伝している。本校は看護など医療系専門学校へ進学する生徒が多く、将来の就職を見据えた進路選択にむけた指導を行っている。

・（質問）

生徒たちはしっかりとした職業観をもって進学しているか。

・（回答）

「専門学校への進学は職業を決めることと同じ」と指導している。看護系など、国家資格が取れる専門学校はしっかりしているが、卒業後の就職が心配な専門学校もある。早い時期から専門学校を希望する生徒もいるが、できるだけ選択の幅を広げるよう指導している。

・（質問）

進路決定は本人の意志と保護者の希望ではどちらが強いのか。

・（回答）

進学は学費がかかることもあり、保護者の意向が強くなるが、本人の自主性にまかせ、応援しようという保護者が多いように思う。ただ、学校としては、安易に受験先を決めてしまわないよう、一般入試や公募推薦など、最後まで頑張るように指導している。

・（質問）

4年生大学への進学率について目標値はあるか。

・（回答）

難関大学から就職まで、幅広い希望に対応する進路指導が本校の使命だと考えている。本校に限らず、生徒たちは進路先をAO入試や指定校推薦などで早く決めたがる傾向があるが、一般入試など、目標に向かって最後まで頑張れる生徒をいかに増やせるかが課題である。最近は無理をさせない風潮もあり、苦勞している。

毎年、簿記コンクールの全国大会で東京に行くが、東京金陽会から激励と金一封をいただく。また、県庁や有名企業など、卒業生の方々は県内外で活躍されている。その期待に応えなければと考えている。

- ・(意見、要望)

10年先の成長を見据えた進路指導というのは良いと思う。進路先が決まればおしまいではなくその先を見据えた進路指導は大事。地域の少子高齢化が進む中、生き残りをかけて、魅力ある学校づくりに努めてほしい。学校と実学のあり方など、様々な取り組みの例に学んでほしい。

- ・(意見、要望)

五條高校は昔から幅広い層の生徒がいるが、それぞれの生徒が一つでも学力レベルを上げられるよう指導してほしい。

- ・(意見、要望)

学校運営協議会のような場は、これまではなかったことなので、ありがたく思っている。これからも進路指導を充実させてほしい。

(4) 情報交換

- ・金陽会では「在校生に何ができるか」をテーマに、講演会や芸術鑑賞など、継続できる事業を検討している。来年度の学校行事とすりあわせ、実施に向けて取り組みたい。
- ・育友会では、文化祭1日目の出店、金剛登山の炊き出し、乗車マナー指導などで、子どもたちとふれあう機会をもっている。

(5) その他

- ・今後の予定について

第2回学校運営協議会 2月27日(水)に開催予定

